



久留米市生物多様性地域戦略

くるめ生きものプラン

生物多様性を守るためのハンドブック

編集・発行

久留米市 環境部 環境保全課

〒830-0042 福岡県久留米市荘島町375番地

TEL:0942-30-9043

FAX:0942-30-9715

E-mail:kanhozen@city.kurume.fukuoka.jp

おしらせ

YouTube『久留米市エコチャンネル』では、久留米市環境部公式キャラクター『ワケルンジャー』の動画など、環境に関連する動画をみることができます。

たくさんの人にエコについて知ってほしいので、右のQRコードから、ぜひ見てください。



【お問い合わせ】久留米市環境部環境政策課

Tel:0942-30-9146 Fax:0942-30-9715

食べ残しや売れ残りなどの、食べられるのに捨てられる食品、いわゆる『食品ロス』が国内で522万トン発生しています。

食品ロスの発生を減らすために、市では「てまえどり」キャンペーンを実施しています。

買ってすぐに食べる時は、棚の手前にある販売期限の近い商品や値引き商品を積極的に選び、捨てられる食品を減らすことにご協力ください。



【お問い合わせ】久留米市環境部資源循環推進課

Tel:0942-30-9143 Fax:0942-37-3344



もくじ

なぜ生物多様性地域戦略を作ったの？	1
生物多様性とは	2
3つの多様性	3
4つの生態系サービス	4
4つの危機	5
生物多様性が失われることによるリスク	6
行動リスト	8
触れあおう	9
学ぼう	11
守ろう	13
活かそう	15
広めよう	17
市民公益活動団体の取り組み	18
優れた生態系を有する地域に行ってみよう	19
外来種について	20

なぜ生物多様性地域戦略を作ったの？

わたしたちの生活は、水や空気、食べ物、着るものの材料、薬の原料など自然からの恵みに支えられています。

私たちは、自然からの恵みを利用しなければ一日たりとも生きて行くことができません。

私たちの暮らしは、昔に比べると大変便利になっていますが、人間が暮らしの便利さや住みやすさを求めた結果、生きものたちの生息・生育する場所を奪うなど、生物多様性が失われつつあります。

生物多様性が失われると、人間の力では簡単にはもとに戻すことはできないし、いなくなった生きものを2度と戻すことはできません。

そのためにも、みなさん一人ひとりが自分自身の問題として、新たな一歩を踏み出すことが必要となります。

今ある、久留米の自然を大切に守り、これからもずっと自然の恵みを受けていくための取組となる計画を作りました。

久留米市が目指す「自然とふれあい、自然と生きるまち くるめ」を、みんなで目指していきましょう。

生物多様性とは

地球上の生きものは、約40憶年という長い歴史や様々な環境で進化し、細菌から人間まで約3,000万種の様々な生きものが生まれました。

森林・草原・川・海などの色々なタイプの自然環境があり、それぞれの自然環境に合った生きものが生息・生育しています。

植物を虫が食べ、虫をカエルが食べ、カエルを鳥が食べ、鳥が死んでしまうと、微生物などによって分解され、最後は植物の栄養になるといった色々な関係でつながりいながら生きています。

大きさ、形、色、地域によって遺伝子などに違いがあり、食べたり、利用したりするなど、そのつながりによりバランスを保っています。

このように、多くの生きものがいたり、生きものが生息・生育する色々なタイプの自然がたくさんあったり、同じ生きものでも形や色など違う個性を持っていることを「生物多様性」と言います。

わたしが食べる肉や野菜などの元をたどると、水と塩以外のほとんどは動物や植物にたどりつくんだ。
人間と大きく関わっていることがわかったかな。



3つの多様性

生態系の多様性

森林、里山、河川や湿地など、いろいろなタイプの自然に応じた生態系が形づくられ、様々な自然に合った生きものたちが生息・生育しています。



河川



草地



ため池

種の多様性

細菌から、植物や昆虫、鳥、魚などの動植物まで、多くの生きものがお互いに関わりあいながら、生息・生育していることをいいます。



アオバズク



ホソバオグルマ



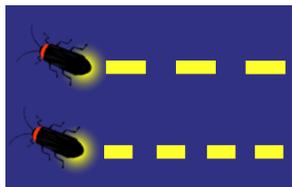
ハイロゲンゴロウ

遺伝子の多様性

同じ生きものでも、個体や地域によって、色や形など違う遺伝子を持つことで、暑さや病気などの環境変化に対応して、種として生き残ることが出来ます。



アサリ



ホタルの光り方

4つの生態系サービス

普通に生活をしていると、生物多様性の恩恵に気づきにくいですが、私たちの暮らしは、食べ物、水、空気、気候の安定など、生態系から得られる恵みに支えられています。

これらの恵みは「生態系サービス」と呼ばれ、4つに分類されています。

生態系サービスの区分	自然からの恵みの例
供給サービス 食料、木材、薬や衣類など、生活に必要な物を供給します。	
調整サービス 水の浄化、土砂災害、洪水を防ぐなど、環境を調整します。	
文化的サービス 美しい景色、川遊びや登山などのレクリエーションの機会を提供してくれます。	
基盤サービス 土壌、水、空気などを作り出し、生きものの命や、私たちの生活が支えられています。	

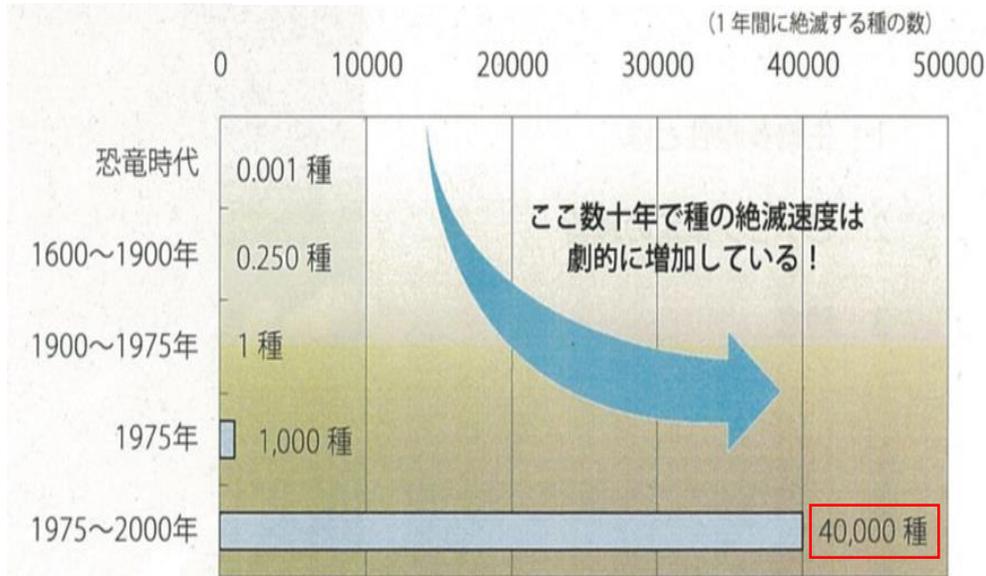
4つの危機

地球上の生物は、これまでわかっているだけでも5回の大絶滅が起こっており、過去の大絶滅は、火山の噴火や隕石の衝突などの自然現象により起こったとされています。

今起こっている第6大量絶滅は、私たち人間活動による影響が主な要因で、地球上の種の絶滅のスピードは自然状態の約100倍から1,000倍にも達し、1年間に約4万種もの生きものが絶滅しているといわれています。

現在の生物多様性は、主に人間活動による影響によって、4つの危機にさらされています。

1年間にいなくなっている生きものの数



■第1の危機

開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少

住宅や道路など人の利用する場所としての開発により、生きものの生息・生育場所が減少しています。

また、観賞や販売、食べるための魚など、必要以上に多く獲ることにより、生きものの数が減少しています。

■第2の危機

里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下

自然に対する人間の働きかけが減ることにより生態系のバランスが崩れ、里地里山の動植物が絶滅の危機にさらされています。また、狩猟を行う人が減少していることで、イノシシやシカなどの増加も生態系に影響を与えています。

■第3の危機

外来種などの持ち込みによる生態系のかく乱

人の手によって持ち込まれた外来種が在来種を食べたり、交雑により遺伝的な攪乱などの影響を与えています。また、化学物質や海洋のプラスチックごみによって、遠く離れた地域の生きものにも影響を与えています。

■第4の危機

地球環境の変化による危機

地球温暖化により、植物の開花の時期や農作物の収穫量、降水量の変化、海面温度が上昇したりすることによって、動植物の20~30%で絶滅のリスクが高まるといわれています。

「生物多様性」が失われることによるリスク



不^ふ作^{さく}・不^ふ漁^{りょう}などによる

「食糧不足」のリスク



害虫^{がいちゅう}や病原菌^{びょうげんきん}の発生^{はっせい}
などによる
「健康被害」のリスク



「森林のダム機能」の
損失などによる
「自然災害」のリスク



自然景観^{しぜんけいかん}の悪化^{あくか}や種^{しゅ}
絶滅^{ぜつめつ}などによる
「文化消失」のリスク

出典：環境省「生物多様性及び生態系サービスの総合評価」

このように、生物多様性が失われると、私たち人間の力
では戻すことは、とてもむずかしくなります。

生きものを守るため、身近なところから行動することが、
私たちの暮らしを守っていくことにつながり、生物多様性の
恵みを受け続けられるための第一歩と言えます。

私たち一人ひとりが日々の生活の中で実践できる行動
について、目安となる行動リストを作成しました。

今日から生物多様性を守るための行動をしましょう！

行動 1

触れあおう 実践したものに チェックをいれよう

- 家の周りを散策しよう
- 山や川に行き遊んでみよう
- 身近な自然を発見しよう
- 動物園、植物園などに行ってみよう
- 四季を感じてみよう

行動 2

学ぼう

- 身近な草花や虫などの名前を調べてみよう
- 自然の恵みを調べてみよう
- 環境の違いによる生きものを調べてみよう
- 外来種による被害を調べてみよう
- 生きものが減っている理由を調べてみよう

行動 3

守ろう

- 生きものにやさしい商品を選ぼう
- ごみのポイ捨てはやめよう
- 公共交通機関や自転車を使おう
- ペットは最後まで飼おう
- 自然を守る活動をしてみよう

行動 4

活かそう

- 地元で生産されたものを地元で食べよう
- 手作り堆肥で野菜を作ろう
- 自然からの恵みを大切にしよう
- 緑のカーテンを作ろう
- 使い捨ての物は使わないようにしましょう

行動 5

広めよう

- 家族や友達に伝えよう
- 写真や絵にしてみよう
- 観察会や自然環境保全活動に参加しよう
- 体験したことを広めよう
- 生きものを守るためにできることを広めよう



触れあおう

身近な自然や生きものに興味をもってみよう



私たちの生活は、昔より便利で住み良いものになりました。しかし、その一方で、多くの生きものがいなくなっています。

自然観察会や自然体験に参加するなど身近な自然や生きものとたくさんふれあい、体で感じてみましょう!

家の周りを散策してみよう

家の周りにも、たくさんの自然があります。

田んぼ、水路、公園など、そこにいる生きものがどのような生活をしているのか観察してみましょう。



山や川に行き遊んでみよう

高良山や筑後川などにはたくさんの自然があり、そこでは必ず植物や、虫、鳥、魚、動物たち…色々な生きものを発見できると思います。自然の中で遊んでみましょう。

※川や山へ行く時は、必ず大人と一緒に行きましょう!



身近な自然を発見しよう

家や学校、公園の樹木や草花に来る鳥や虫を探してみよう。

身近な私たちの暮らしの中に生きものたちが暮らしています。



動物園、植物園などへ行ってみよう

鳥類センターやくるめウスなどに行って、生きものを観察してみよう。

たくさんの種類の生きものが、様々な形をしていて、いろいろな暮らしをしています。



四季を感じてみよう

四季の移り変わりで、自然の特色や生きものの生態を実感することができます。

自然の移り変わりをより身近に感じてみましょう。

街なかで見られる生きもの 見つけたら□にチェックしよう



ハクセキレイ



キアゲハ



ニホントカゲ



アオドウガネ



アオスジアゲハ



ニイニゼミ



ヒヨドリ



ホトケノザ

まな
学ぼう

ひと い きもの つながり を 調べよう



わたし くらし は、いきもの 恵み によって 支えられて います。

そんな 中で、最近 では「絶滅 してしまう かもしれない」と 言われる 生きもの が 増えて います。

なぜ、生きもの が いなくなったり、生きもの が 住める 環境 が なくなったり している のか、調べて みよう!



み ちか くさばな むし まなえ しら
□身近な草花や虫などの名前を調べてみよう

身近に いる 生きもの のなかで、興味 を 持った 生きもの に ついて、インターネット や 図書館 など で 調べて みよう。



し ぜん めぐ しら
□自然の恵みを調べてみよう

わたし は、空気、水、食物 など、自然 から の 恵み を 受け 生活 しています。自然 の 大切 さ や 他 に も、わたし の 暮らし に どん な 自然 の 恵み が ある か 調べて みよう。



かんきょう ちが い きもの しら
□環境の違いによる生きものを調べてみよう

街なか や、山地、川、田園 など、生きもの たちが 暮らす のに、いろい ろ な 環境 が あり ます。それ ぞれ の 場所 で 暮ら している 生きもの の 違い を 調べて みよう。



が いら いしゅ えいきょう しら
□外来種による影響を調べてみよう

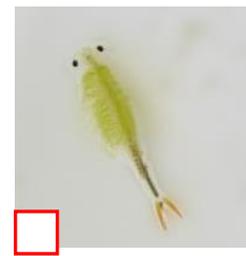
外来種 は、もともと その 地域 に いな かった のに、人 の 手 によって 持ち 込ま れ た 生きもの です。外来種 の なか に は、まわり に 悪い 影響 を およぼ す 種類 も います。ど の よう に して 持ち 込ま れ た のか、調べて みよう。



い きもの が 減 っ て いる 理由 を 調べて みよう

人間 の 活動 によって、空気 や 水 を 汚し たり、生きもの が 住める 環境 を 壊 している から かも しれ ませ ん。なぜ、生きもの が 減 っ て いる のか 調べて みよう。

でんえん み たい い み
田園 で 見 ら れ る 生きもの 見 つけ たら □ に チェック し よう



ホウネンエビ



ハネナガヒシバツタ



メダカ



チュウサギ



ケラ



モンキチョウ



マイマイカブリ



シオカラトンボ

まも
守ろう
みぢか しぜん い まも
身近な自然や生きものを守っていこう



豊かな自然を守るために、私たちができることは何でしょうか？「身近な生きものを大切に」「ペットを野外へ放さず最後まで飼う」といった一人ひとりの行動の積み重ねが重要です。未来のために、生きものを守りましょう。

生きものにやさしい商品を選ぼう



私たちが生活するうえでできることは、生きもののことを想って行動すること。生きものにやさしい商品を調べて、環境への影響の少ない商品を選ぼう。

ごみのポイ捨てはやめよう



ごみのポイ捨てをすると、水や土が汚れ、生きもののおすみを奪うことにつながります。地域の清掃活動に参加して、生きもののおすみを考えた行動をしてみよう。

公共交通機関や自転車を使おう



近所の外出は、車でなく、なるべく歩いて行ったり、自転車を利用するなど、地球温暖化の原因の一つである、二酸化炭素を出さないように取り組んでみよう。



ペットは最後まで飼おう

ペットの中には、もともと地域の自然には生息していない生きものもいて、ペットを捨てたり、逃がしたりするとともにいた生きものに大きな影響を与えてしまいます。最後まで責任をもって大切に飼おう。



自然を守る活動をしてみよう

守るのもなくすのも人の活動によって変わります。自然を守る活動をみんながすることによって、それが大きな効果へとつながります。自分ができそうな活動から始めてみましょう。

川辺で見られる生きもの 見つけたら□にチェックしよう

			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アオモンイトトンボ	キセキレイ	コムラサキ	ツチフキ
			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
トノサマバッタ	スジエビ	オオヤマトンボ	カンムリカイツブリ

活かそう

自然と生きものの恵みを活かそう



私たちが気持ちよく生活するためには、どうしてもエネルギーが必要です。

自然の恵みを活かして、暮らしのエネルギー消費の削減と地域の自然の恵みを上手に有効活用してみよう。

□地元で生産されたものを、地元で食べよう

生産地から食卓までの距離が短いから、食物を運ぶために必要なエネルギーも削減でき、環境に優しく、生きものを守ることに繋がります。地域、季節の生きものたちの恵みをいただきましょう。



□手作り堆肥で、野菜を作ろう

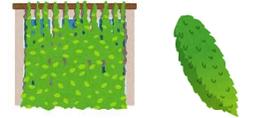
家庭から出される燃やせるごみのうち、約35%が生ごみです。微生物の力によって分解されてできた堆肥を使って野菜などを作ってみよう。



□自然からの恵みを大切に使う

私たちの暮らしに欠かせない水や食料、衣服、医薬品などをはじめ、さまざまな自然の恵みを受け取っています。生態系からもたらされる恵みによって支えられていることに、感謝しよう。

□緑のカーテンを作ろう



日差しが当たらないようにすることで、室内温度の上昇を抑えられるので、エアコン等の使用を少なくすることができます。植物を育てる楽しさを味わうこともでき、緑のカーテンに、生きもの達も集まってきます。

□使い捨ての物はなるべく使わないようにしましょう

毎日の生活の中で、「最後まで大切に使う」「再使用できるものは繰り返し使う」「資源になるものはリサイクルする」「どうしても使えないものだけごみに出す」といったごみ減量に取り組もう。

山地で見られる生きもの 見つけたら□にチェックしよう



スズムシバナ



ヨツボシケシキスイ



サワガニ



コゲラ



イカル



ミヤマクワガタ



イシガケチョウ



ヤマトタムシ

ひろ
広めよう
ひとりひとりが行動するためにもひろめよう



生物多様性の保全に取り組むには、一人ひとりが生物多様性についての理解や関心を持って行動することが求められます。生物多様性を守るためには一人でも多くの方の協力が重要です。「自然とふれあい、自然と生きるまち くるめ」を目指すためにも一緒に行動する仲間を増やしましょう。

家族や友達に伝えよう

「触れあおう」で発見・体験したことや、「学ぼう」で調べた自然のすばらしさや生きものがなぜ減っているのかななどを家族や友達など身近な人に伝えてみよう。



写真や絵にしてみよう

季節の移り変わりの風景や、今ある身近な自然の風景を写真や絵などに残して、自然の魅力をみんなに伝えよう。



観察会や自然環境保全活動に参加しよう

自然観察会や地域の清掃、自然環境保全活動団体の取り組みなど、身近に行われている取組に関わってみよう。



体験したことを広めよう

自然の恵みで、わたしたちの生活が成り立っています。自分が体験したことをみんなに伝え、みんなにも体験してもらいましょう。自然や生きもののことを考える人を増やすことにつながります。

何かでできるかな？

生きものを守るためにできることを広めよう

日常生活のあらゆる場面において生物多様性への配慮をして行動することが重要です。今日からできることを始めて、みんなに広めよう。

市民公益活動団体の取組

久留米市には、環境を守るために多くの市民団体の皆さんが活動されています。

市では、一人でも多くの人たちが身近な環境問題の解決や保全活動の取組に参加し、活動を広げていくことを目的に、久留米市のホームページに団体の活動紹介やイベント情報などを環境ポータルサイト「エココ」で発信しています。

環境保全活動に興味がある方、参加したいという方は、見てください。

一緒に活動するはい!!



QRコード



環境ポータルサイト「エココ」
環境ポータルサイト「エココ」

優れた生態系を有する地域に行ってみよう

城島町の浮島地域

タコノアシ(植物)が見られ、ウナギやベンケイカニなどもあるよ。



鎮西湖付近

コムラサキなどのちょうや、アリアケギバチ、オヤニラミなどの魚もいるよ。



広川の河口付近

サギなどの鳥が見られヤマノカミ、エツなどの魚もいるよ。



筑後川中流域(恵利堰周辺)

いろいろな魚がいて、コアジサシやイカルチドリなどの鳥も見られるよ。



高良山周辺

天然記念物のキンメイモウソウチクが見られ、オオタカやハヤブサなどもあるよ。



竹野地区の里地里山

なかなか見られないヒナモロコが自然に増えるように、地域で取り組んでいるよ。



※お願い 川や山へ行く時は、必ず大人と一緒に行きましょう!

「外来種」とは、海外から日本に持ち込まれた外来生物と思われるが、外国から持ち込まれた生物(国外外来種)と、日本の他の地域から持ち込まれた生物(国内外来種)の両方が含まれます。

国外外来種	国内外来種
アライグマ、ミシシippアカミミガメ、アメリカザリガニなど、人間活動によって、国外から持ち込まれた生物。	人間活動によって、国内の他の地域から持ち込まれた生物。 もともとからその地域にいる生物に影響を与える場合があります。
	

※「外来生物」は、国外由来の外来種のみを指します。
※渡り鳥、海流にのって移動してくる魚や植物の種などは、自然の力で移動するものなので外来種には当たりません。

外来生物対策について

最近、何かと話題となっている『外来生物』を、市内の身近なところでも見かけるようになりました。市内には、豊かな自然があり、まだ外来生物が生息していない場所もあります。生きものの暮らしを守るために、3つの原則を守って外来生物をこれ以上拡げないようにしましょう。

外来生物被害予防三原則

- ・入れない
- ・捨てない
- ・拡げない

1. 悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に『入れない』
2. 飼っている外来生物を野外に『捨てない』※逃がさない
3. 野外にすでにいる外来生物は他の地域に『拡げない』